



2019年 新春の挨拶



新年明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えるに当たり、町民の皆様にご挨拶申し上げます。

昨年は、激動の年でした。地域で唯一病床を有する病院の閉院、JR札沼線の一部廃線等厳しい課題に直面、さらに9月には台風と地震災害に遭遇、その課題解決に時間をかけた一年でした。加えて、天候不順による農作物の不作も経済的に深刻な影響をもたらしました。

もちろん暗い話ばかりではなく明るい話もありました。日本体育大学・北海道医療大学・北海道銀行・当別町、4者の連携協定を北海道銀行の斡旋で締結することが出来ましたし、「北欧の風 道の駅とうべつ」は、開業391日目、1年と1カ月で来場者100万人を突破、売上額も5億円の大台に乗せることが出来ました。

さて、今年の干支は己亥年（つちのと・い）。「亥（い）」は猪のごとく「猪突猛进^{ちよとつもうしん}」という一直線に突き進むイメージがありますが、「亥」には生命が閉じ込められている状態という意味もあり、「己（つちのと）」は草木が十分に生い茂って整然としている状態を表すようで、「亥」と「己」を合わせた「己亥年」は、来るべき時に向けて準備を整える年ともいわれているようです。

本年は、「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の最終年となりますが、その戦略の中で、最も進捗が遅れているのは「人口減少に歯止めをかけること」であります。「当別駅・太美駅の駅前開発」、「当別版CRC」、「商店街の活性化」、「子育て世帯を増やす施策」等を一步でも前進させること、そして「起業・企業誘致」、「当別町農業10年ビジョン」、「再生可能エネルギー事業」、「医療・介護・福祉政策」、「教育レベルの向上」、「住宅開発」等々の事業展開のスピードを早めることが、人口減少からの早期脱却に繋がるものと、今年も果敢に挑戦して参ります。

さらには、昨年遭遇した災害を教訓とし、町民の人命と財産を守るためには「役場庁舎の建て替え」を急ぐ必要性を痛感した次第です。

平成の締め括りとなる2019年が、皆様にとりまして希望に満ちた年となりますよう心からお祈り申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

当別町長 宮司 正毅

